

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

第77号

発行 東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
2015年2月
Tel. 03-6844-3563

スキルアップ講座・ジェンダー視点でとらえる災害と防災・減災 「弱者を増やさない助け合い・被災者支援」を開催しました

災害後の避難生活や復興の過程の中で、高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児などの支援は女性の視点と切り離すことはできません。日常の防災にもジェンダー（男女共同参画）の視点を取り入れることが必要となってきます。

本講座は、コープ災害ボランティア養成講座の内容をさらに深めるスキルアップ講座の第2弾として、第1弾の「まち歩き・マップづくりトレーナー養成講座」（2014年6月）に続いて企画され、CO災ボ会員以外にも対象を広げて募集しました。参加者から、「平時からの話し合い、男女協力して進めていく、特に女性の立場で被災を考えることの大切さに気づいた。」「自分がどの立場になっても良いようにいつも考えていきたい。」「地域の防災減災対策活動に参加したい。」「学んだことを町会の集まりで話してみようと思う。」などの感想が出されました。

日時：2014年11月29日（土）

会場：コープみらいプラザ新中野

参加：41名（CO災ボ会員30名）



あいさつ
大矢代表幹事



司会 野崎幹事

被災地の現実を知り、自分たちで平常時、被災時どう役立つか学んで広げて欲しい。



《講演》「男女で異なる被災経験と、あたらしい時代の防災活動」

講師：浅野 幸子 氏（早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員）

大規模災害時には拡大する傾向の被害・困難として、直接の人的被害、救命・救助力の不足、建物やライフラインの被害、避難生活者の増大と、避難生活上の過酷さと犠牲者の発生（高齢者・障がい者はもちろん女性や子どもも）があり、経過とともに被害は拡大する。当事者の多様な人たちが地域や周りに伝えていっていただきたい。女性のニーズは家族のニーズ。みなさんの知識や経験が、被災者を救うことになります。

東日本大震災では・・・

死亡者の、障がい者の死亡率は健常者の2倍以上であった。避難ができなかった理由として、避難の判断に必要な情報が得られなかった、周囲の支援がなかった、避難する場所がわからなかった等。避難しなかった理由として、設備や環境の問題から避難所では生活できないと思った、自宅で生活できた・行く必要なし、他の避難者も多く、避難所には居づらいと感じると思った等が多かった。

避難生活で被災者が置かれがちな状況・・・

誰でも、どの立場になるかわからない。劣悪な条件の避難所環境・在宅避難生活で亡くなる人も多い（関連死）

避難生活で見られる健康問題では・・・

プライバシー・トイレ環境・衛生・物資の不足等、さまざまな問題により引き起こされる困難は、男性にはわかりにくい、特に要介護者や女性の問題。

災害時の女性と子どもへの暴力対策【ポイント】・防犯リーダーにも女性が入って、男性女性情報交換いかなる犯罪も許さないという地域リーダーたちの毅然とした態度が重要。女性リーダーも一緒に担当する。女性と子どもから意見を聞いて、環境改善を行う。被害者がいる場合は、個人名が周囲に知られないよう担当者がプライバシーに配慮する。専門的機関と連携する（警察、男女共同参画センター、保健所等）

性別・立場による被災の違い・・・

生活環境・安全面の困難として、プライバシー、衛生問題。女性用品、乳幼児・介護用品の不足や男性のみによる配布等の物資の不足と配布方法の問題。ハラスメントやDV、性暴力の発生等安全の問題。家庭・社会生活面の困難として、性別役割の固定化、働くこと・収入を得ること、女性は論議に参加しにくい等復興への参画の問題。

性別・立場別に異なる災害時の困難・・・

主に復旧・復興期では、孤立する・ひきこもる人の問題、DVなど暴力の問題、社会的支援へのアクセスの問題（男女共同参画センターに相談できるか等）

防災・復興と男女共同参画・・・

女性が地域の役員や自治体など組織の責任者に複数名就けるようにし、男女双方で対策を進めることが大切です。（班運営なども男女混成で）

東日本大震災後の各地の取り組み・・・

地域防災会議における女性委員等の増員、地域防災計画の見直しへの反映、避難所運営マニュアル等への反映、自治体職員向け学習会開催、地域防災リーダー向けの学習会（女性の活躍に理解のある）、男女共同参画センター主催の学習会、関係する各部門や関係機関、民間団体間の連携等。



一住民として、被災したときに、性別の問題、地域のリーダーや支援者として入っていくために考えることとしてミニワークも行いました。

食事の配分

食物アレルギー

情報収集と物資の配布

模造紙に書き出してグループで話し合いました。

《グループワーク》

「弱者を切り捨てない被災者支援？ さあ、あなたならどうするっ!？」

「あなたのまわりにこんな方がいたら？」

多様な方たちが避難所に来ます。どのようなことに困るでしょうか？
また、どのような配慮・支援が必要でしょうか？同じ障がいであっても、障がいの状況やその時の体調によって、必要な支援は一樣ではありません。
・認知症の方 ・知的障がいの方 ・外国人 ・性的マイノリティの方 ・子ども



第14期コープ災害ボランティア養成講座が修了しました

第14期コープ災害ボランティア養成講座は、9月27日（土）から5回連続で開催されました。修了式では67名の受講生に修了証書が授与されました。今期は欠席が少なく、約半数の33名が皆勤賞を受賞しました。災害が起きた時に自分に出来ることは何か、災害ボランティアとしてどう活動したらよいか、また、災害が起きる前に備えることは何かを、この講座で学び取りたいという目的意識をもった参加者が多かったことが分かります。さらにスキルアップ講座や、訓練やボランティアへの参加希望がアンケートに多く記されており、受講生にとって気づきの多い講座となりました。各生協や地域での活動参加が、今後大いに期待されます。



第2回救命救急講習

第2回の救命救急講習では、CO災ボ会員7名が参加して再講習を受けました。第3回は、杉並区と合同で荻窪周辺のまち歩きとマップづくりを実施しました。6月に開催したスキルアップ講座修了生が初めての実践の場として、事前にコースを歩いて決め、当日のファシリテーターとしても参加しました。



第3回まち歩き



第4回避難所を考える

第4回は「クロスロード」ゲームを参考にして、避難所での対応を直感的に判断したり、グループでより良い答えを導き出す体験に取り組みました。

第5回は50人分のアルファ化米炊き出し訓練、本講座の振り返りと修了式を行い、67名に修了証書とCO災ボジャンパー、33名に皆勤賞が授与されました。



第5回炊き出し体験



第5回修了式



講師の東京災害ボランティアネットワークの福田信章さん

14期養成講座修了生

コープみらい	33名
パルスシステム東京	22名
東都生協	5名
全労済	4名
生活クラブ・東京	2名
東京都生協連	1名

第14期コープ災害ボランティア養成講座		
第1回 9/27	開講式・オリエンテーション・講演	東京都生協連会館
第2回 10/4	普通救命救急講習	東京都生協連会館
第3回 11/1	防災・減災視点のまち歩きとマップ作り	あんさんぶる荻窪・荻窪周辺
第4回 11/15	被災&ボランティアシミュレーション	中野サンプラザ
第5回 12/6	炊き出し訓練・修了式	東京都生協連会館



2014年三宅島おそうじボランティア

実施日程

- ①11月28日(金) ~30日(日)
- ②12月12日(金) ~14日(日)

2000年の三宅島の噴火災害から14年が過ぎ、「三宅島おそうじボランティア」は2005年から10回目の開催となりました。今回は2回のプログラムが実施されました。CO災ボ前会員と会員生協職員等に呼びかけて15名の生協関係者が参加しました。第2回は強風の影響で、三宅島から早朝の出航となり、予定の島内視察ができませんでしたが、その他は予定通り行われました。この活動を通じて、島の皆さんと直接関わる中で交流を深め、ボランティアとしての経験や気づきを感じることができました。



参加者の感想

- ・島の皆さんが本当に赤帽の私たちを心待ちにしてくださり、短い期間の中で年末のおそうじを通じて交流を深めることができました。
- ・全島避難という大変なことを乗り越えてきた島民の方々の思いや強さを会話の中で感じました。
- ・2000年の噴火から14年が経ち、もう被災者と支援者という関係ではないかもしれませんが、このような形で災害支援が続いているのは他に例がないことと聞いています。長期にわたる災害支援のモデルとしてこれからも継続していった欲しいと思います。

到着を楽しみに待ってくださったので、お茶飲みからスタートしました。



参加したボランティアの皆さん

いま、わたしたちに、できること。 2015~KOBE MEMORIAL 1.17 灯りのつどい



阪神淡路大震災から20年目の2015年1月17日(土)、東京国際フォーラム地上広場で、東京災害ボランティアネットワーク主催の16回目の「1.17 灯りのつどい」が開催されました。

あの震災の記憶を風化させずに教訓としてつなぎ続け、来たるべき災害に備えて、市民の私たちに何ができるかを考えるイベントです。

今回は、シンポジウム「首都東京の災害に備える」もホールで企画されました。東京都生協連はCO災ボのボランティア(16名)や会員生協の皆さんと、会場づくり、おしるこの炊き出しやパネル展示、シンポジウムに参加協力しました。



灯りのつどい

2015年1月17日(土)

東京国際フォーラム

15:00~17:00

シンポジウム(D1ホール)

16:00~18:00

灯りのつどいイベント(地上広場)

【17:46 黙祷】

主催:東京災害ボランティアネットワーク



他団体の皆さんと一緒にテントを作るCO災ボ会員



災害時の炊き出し訓練としておしるこを作ります。

CO災ボのボランティアが協力し合って、おしるこ約570食を提供しました。寒い中、あたたまって笑顔になった皆さんからの「ごちそうさま」の声がとても嬉しかったです。



シンポジウム

阪神・淡路大震災20年シンポジウム「首都東京の災害に備える~1.17.3.11の次へ向けて~」が開催、113名が参加されました。ネットワーク組織による被災者支援の現状と課題の講演と、首都直下地震に向けた各団体における人材育成、プログラムについての現状と課題についてパネルディスカッションが行われ、東京都生協連からもCO災ボの取り組みを報告しました。

東京都生協連のおしるこ炊き出しテントでは、当日、東日本大震災の被災者支援募金として16,556円が集まり、後日東京災害ボランティアネットワークに贈呈しました。



東京都生協連 事務所移転のお知らせ

★東京都生協連事務所が移転しました。

〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-8-16 北新宿君嶋ビル8F

Tel. 03-6844-3563 Fax 03-6844-6845

事務局からのお願い

ネットワークニュースほか各種の情報をメールでお送りする「CO災ボメール会員」登録を随時受け付けています。経費削減と迅速な情報提供のため、ぜひご協力をお願いいたします。

また、住所・電話番号・メールアドレス変更の際は、忘れずに事務局までご連絡ください。

送信先(こばやし) kobayashi@coop-toren.or.jp